

本資料は平成18年度に作成したパンフレットを
一部抜粋し修正したものです

公害の原点 水俣病について学ぶ



※表紙は出水市から見た不知火海（八代海）沿岸地域の写真です。

本県でも、出水市、長島町などの不知火海（八代海）沿岸地域で多くの水俣病被害者が発生しました。

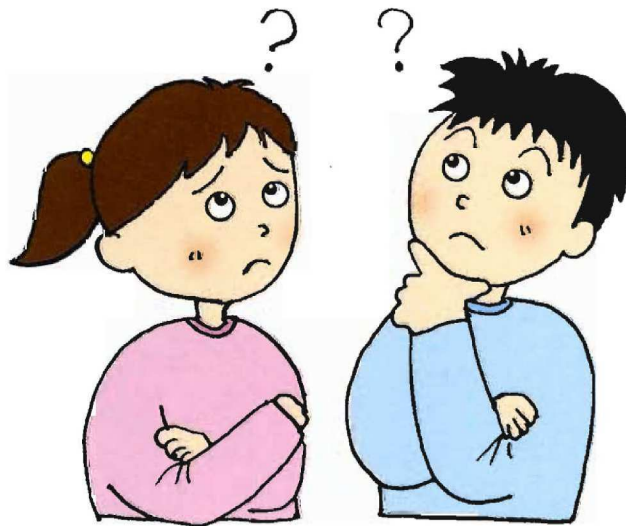


<目 次>

■「^{かた}語^べり部」のお話をよく^き聴いてみよう！

■^{みな}水^{また}俣病を学んでみよう！

- 1 水俣とチツソとのかかわり
- 2 海や生き物たちに^{あらわ}現れた^{いへん}異変
- 3 水俣病の公式^{かくにん}確認
- 4 水俣病の原因は、どんな方法^{げんいん}で調べられたの？^{ほうほう}
- 5 水俣病発生^{げんいん}のしくみ
- 6 水俣病はどんな病気？
- 7 水俣病が発生してどんな被害があつたんだろう？
- 8 水俣病から学ぶことは何だろう？



■「語り部」のお話をよく聴いてみよう！

このお話をしていただいた方は、熊本県水俣市にお住まいの濱元二徳さんです。
濱元さんは、水俣市立水俣病資料館で「語り部」として、水俣病の苦しみや自然の大切さをみなさんに訴え続けています。

はじめまして、私は濱元二徳です。私は昔、水俣湾と不知火海で両親と3人で漁業をしていました。チッソ水俣工場の排水に含まれていたメチル水銀により、魚介類が浮上したり、死滅していききました。そのうち猫が狂死しはじめ、自宅で飼っていた猫も3匹亡くなってしまいました。私が1955年に発病し、両親が1956年にこの病気にかかりました。当時は、患者をチッソの附属病院に入院させたり、熊本大学病院で学用患者（研究用患者）として受け入れてもらっていました。そこで3人とも学用患者として熊大に入院しました。父は苦しみ暴れて狂い死にしました。原因究明のため早速解剖され、その結果脳細胞が破壊されていることがわかりました。母は全身しびれ、寝たきりの状態で亡くなっていききました・・・。

私は、この水俣病のために精神的・経済的・肉体的にぼろぼろにされ、今日まで生きてきました。

日本は高度経済成長の波にのり、発展を遂げてきました。私に言わせると、水俣病患者はこの高度経済成長の犠牲者です。

21世紀に入り、このような状態のまま豊かさを追い求めていくと、自然は破壊され、取り返しのつかないことになるのが目に見えています。私はいまに水俣病にかわる公害が発生するのではなかろうかと非常に危惧しています。

一度壊された環境を元に戻すには、長い年月と莫大なお金が必要になります。また壊された体は二度と戻ってはきません。

私は、水俣病の教訓を発信するとともに、自然保護と人権尊重を提唱したいと考えています。

(※)「語り部」とは？

水俣病についての体験を語り伝えている人のことです。



語り部の活動の様子

水俣市立水俣病資料館提供

■ みなまた 水俣病を学んでみよう！

1 水俣とチッソとのかかわり

明治41（1908）年、日本窒素肥料の工場が熊本県の水俣につくられました。
チッソは化学肥料の生産を始め、やがて日本でも大きな化学工場として、日本の経済を支える企業の一つとなりました。

一方、工場の発展とともに水俣のまちも発展し、村だった水俣は人口も増えて近代工業都市として確立されました。

工場で働く市民も多く、経済的にも社会的にもチッソの影響を強く受けていました。



2 海や生き物たちに現われた異変

チッソ^{みなまた}水俣工場では、昭和7（1932）年からプラスチックやビニールなどの原料になるアセトアルデヒド^{げんりょう}の生産^{せいさん}を始めました。そのアセトアルデヒドを作るときに、毒性^{どくせい}の強いメチル水銀が発生し、工場排水^{はいすい}と一緒に海に流れ、魚や貝に取り込まれていきました。

チッソ水俣工場での生産量が増えるとともに、海の汚染^{おせん}がすすみ、昭和20年代後半（1950年代前半）から、水俣湾^{わんしゅうへん}周辺^{たいていりょう}では海に魚が大量に浮いたり、貝が死んだりするようになりました。

また、不知火海^{しらぬい}（八代海）海岸近くでは、魚を食べた猫^{ねこ}が狂い死にしたり、カラスなどの鳥が飛べなくなるなどの異変がみられました。

<メチル水銀>

水銀には、無機^{むき}水銀と有機^{ゆうき}水銀があります。水俣病^{げんいん}の原因となったメチル水銀は有機水銀の1つで、大変強い毒性^{どくせい}を持っています。無機水銀は、有機水銀より毒性は低く、現在、蛍光灯^{ひく}やボタン電池^{げんざい}、体温計^{けいこうとう}、血圧計^{けつあつ}など、私たちの身近なところで使われています。

当時の水俣湾にいた魚介類の例



タチウオ



カタクチイワシ



ボラ



カレイ



アジ



アナゴ



ワタリガニ



クサフグ



クルマエビ



クロダイ



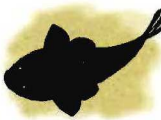
ウマズラカワハギ



カワハギ



カサゴ



コチ



コノシロ



ウミタナゴ



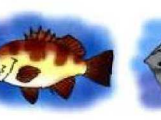
シャコ



ハモ



メジナ



メバル



エビ



マダコ



ヒラメ



シロギスと
ネズミゴチ



コウイカ

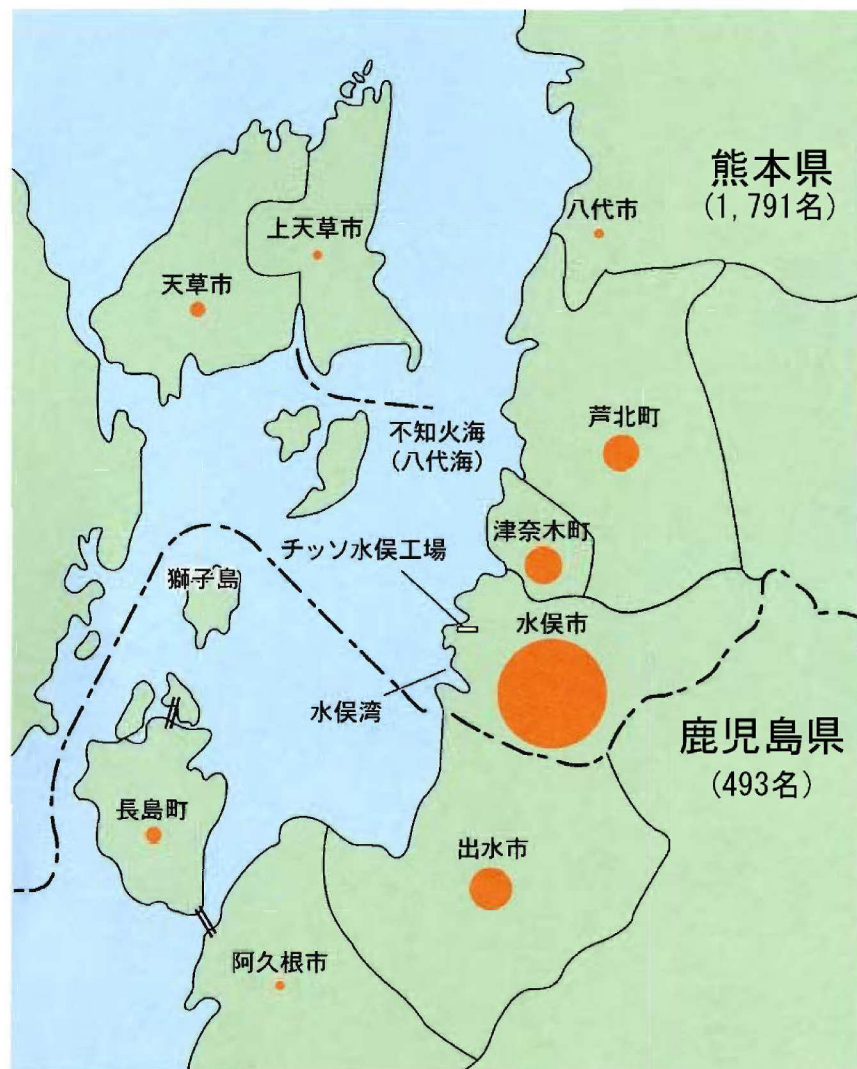
3 水俣病の公式確認

水俣病の発生が初めて確認されたのは、昭和31(1956)年5月でした。熊本県水俣保健所にチッソ水俣工場附属病院の医師から、原因不明の重い病気の患者が入院したとの報告がありました(水俣病公式確認)。

鹿児島県では、昭和34(1959)年8月に出水市で奇病猫が発見され、昭和35(1960)年には出水市で水俣病患者が確認されました。

一方、昭和40(1965)年には、新潟県の阿賀野川流域で水俣病と同じ病気(新潟水俣病)が公式確認されました。

水俣病認定患者の発生分布図



※ 水俣病認定患者は熊本県1,791名、鹿児島県493名、新潟県716名です。

※ 〇の大きさは水俣病認定患者の多い少ないを表しています。

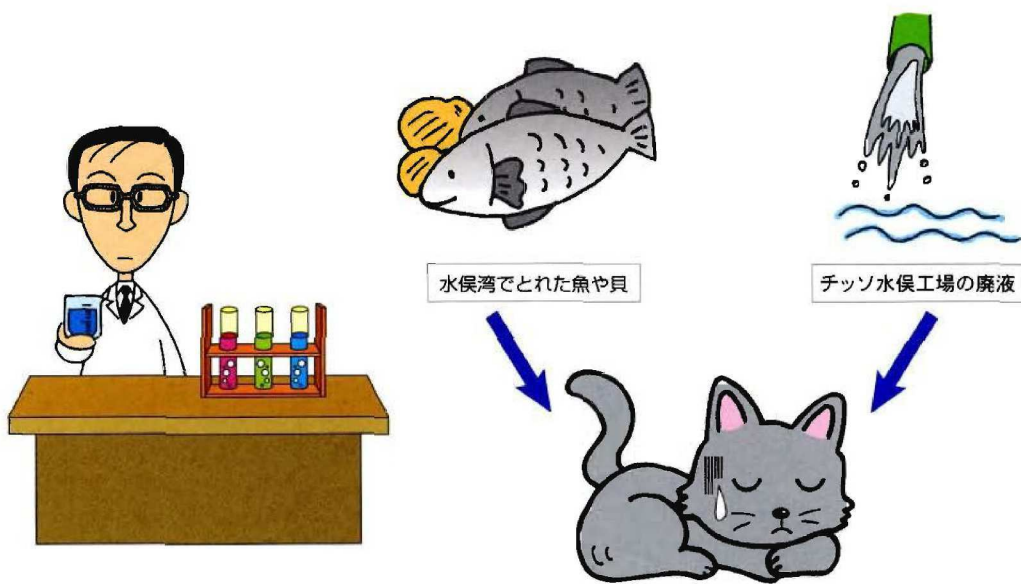
令和7年3月末現在

4 水俣病の原因は、どんな方法で調べられたの？

きちんと歩いたり話したりできないなどの原因が分からない患者がたくさん発生していることがわかってきたため、水俣市や熊本県から依頼を受けた熊本大学の医学部では原因を調べることになりました。患者を診察したり、飲み水や土などを調べたりして、この病気は伝染病ではなく、何かの中毒症であると考えて、水俣湾でとれた魚や貝を猫に食べさせ、同じような病気になるかどうかを調べる実験を始めました。その実験の結果、昭和32（1957）年に、水俣の漁村で水俣病にかかった猫と同じ症状になることが分かりました。この猫実験は病気の原因を探すのに大きな役割をはたし、同年、熊本県は水俣湾の魚を捕ったり食べたりしないよう呼びかけました。

一方で、昭和34（1959）年には、チッソ水俣工場の附属病院では、工場の廃液を猫にあたえたと水俣病になることが実験で分かっていたましたが、チッソはそのことを隠して昭和43（1968）年まで有害な工場排水を流し続けていました。

昭和43（1968）年には国がチッソによる公害病と認めました。

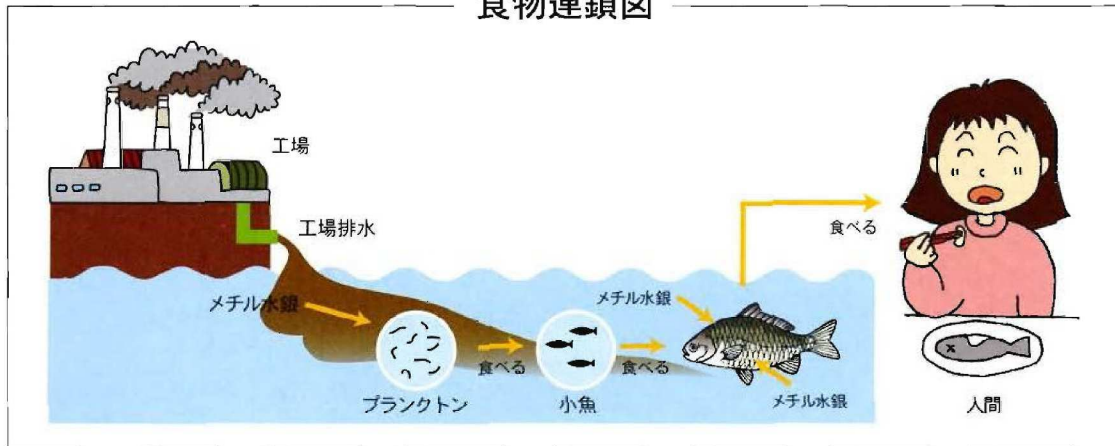


5 水俣病発生のおくみ

自然界には、食べたり食べられたりという生物同士の関係があります。この関係を「食物連鎖」と呼んでいます。水俣病は、この食物連鎖を通して起こった公害でした。工場排水と一緒に海に流されたメチル水銀は、まず水の中のプランクトンや水生昆虫の体内に取り込まれました。その量は、とてもわずかでしたが、メチル水銀の入ったプランクトンを魚が食べると、魚には何十万倍ものメチル水銀がたまりました。（生物濃縮）

水俣湾やその周辺では見た目には分からなくても高い濃度で汚染された魚がいました。その魚を毎日たくさん食べた人間には、さらに多量のメチル水銀が体内に取り込まれ、メチル水銀が体の中にだんだんたまっていき、水俣病患者が多く発生しました。

食物連鎖図



6 水俣病はどんな病気？

水俣病は、チッソ水俣工場から排出されたメチル水銀化合物に汚染された魚や貝を人間が長い間食べることによって起こった中毒症の病気です。

体内に入ったメチル水銀は、腸から吸収され肝臓などにたまり、ここから脳に入ったメチル水銀が、耳や眼、手足などの働きを悪くしていきました。

水俣病の主な症状は、両手両足の感覚が鈍くなる、動きがぎこちなくなる、目が見える範囲が狭くなる、耳が聞こえにくくなる、言葉がはっきりしなくなるなどがあります。

人それぞれによって症状や程度が異なり、とても症状が重い人ではけいれんを起こしたり、意識不明になって死ぬこともあります。これらの症状は、体内に取り込まれたメチル水銀が、脳や神経に障害を与えることにより引き起こされました。

また、見た目にはわからなくても頭痛や疲れやすい、においや味がわかりにくい、物忘れがひどいなどの症状で日常生活に困る慢性型の患者や、妊娠している母親の胎内に入ったメチル水銀が、へその緒を通じておなかの中の赤ちゃん（胎児）へ取り込まれ、生まれながらに水俣病の症状をもった赤ちゃん（胎児性水俣病患者）も見られました。

メチル水銀により一度壊れてしまった脳の細胞を元通りにすることは困難です。このため水俣病を治すことができる治療法は無いと言われており、一時的に症状をやわらげる治療が主になっています。

＜具体例＞（このような症状が様々に組み合わさって現れる病気）

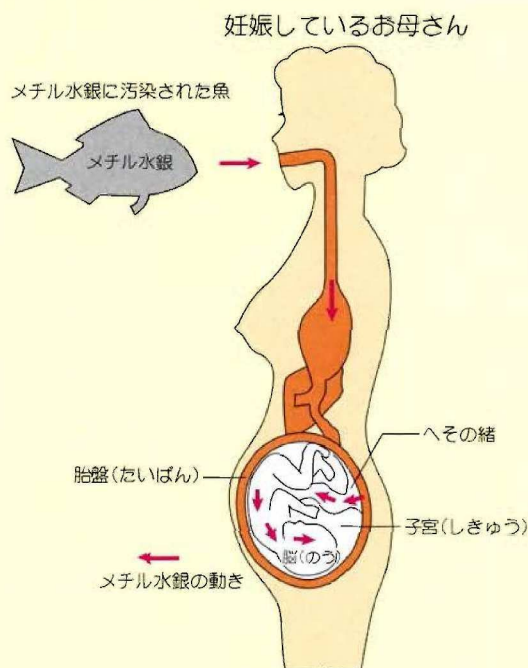
- ①ころびやすい。まっすぐ歩けない。ボタンをかけたり、衣服の着脱など日常の動作が思うようにできない。言葉がはっきりしない。
- ②まっすぐ見たときに周辺が見えにくい。
- ③音の識別ができない。相手の言うことが聞きとりにくい。
- ④じんじんするしびれ。さわられた感じや痛みを感じにくい。熱いものや冷たいものにさわっても感じにくい。

空気や食物を通じて人から人へはうつりません！

遺伝により発生することはありません！

水俣地域特有の病気（風土病）ではありません！

おなかの赤ちゃんに水銀が入るまで



胎児性水俣病患者に食事を与える祖父
昭和35年撮影 桑原史成

7 ^{みなまた}水俣病が発生してどんな被害^{ひがい}があったんだろう？

(1) ^{けんこう}健康被害

水俣病患者は、水俣湾^{わんしゅうへん} 周辺を中心とする不知火海^{しらぬい} (八代海) 沿岸^{えんがん} と新潟県^{にいがた} 阿賀野川^{あがのがわ} 流域^{りゅういき} で発生し、多くの方々が水俣病による健康被害に苦しみました。救済^{きうさい} を訴える方々は高齢化^{こうれいか} し、亡くな^なっていき方^{うつた} が多くな^なっており、被害者^{ひがいしや} やその家族の苦しみは今なお続^{つづ} いています。

(2) ^{かんきょうおせん}環境汚染

チッソ水俣工場の排水^{はいすい} により、水俣湾には水銀を含んだ大量^{たいりょう} のヘドロが海底^{かいてい} に積み重なり、環境が汚染^{おせん} されました。海底に積み重なったヘドロの厚^{あつ} さは4 mに達^{たっ} するところもありました。また、水銀によって水俣湾の魚介類^{ぎょかいりい} は汚染され、人々は魚を捕^と ったり食^く べたりすることができなくなりました。

(3) ^{さべつ}差別・^{へんけん}偏見

水俣病の原因^{げんいん} がまだはっきりしなかった頃^{ころ} から、水俣病は空気などを通^{とほ} じて人から人へうつると誤解^{ごかい} され、患者が出た家庭^{けい} には、人々が近づ^{ちかづ} かなかつたり、就職^{しゅうしょく} ・結婚^{けっこん} が断^{ことわ} られるなどの差別^{さべつ} がありました。これらのいわれの^い ない差別や偏見^{へんけん} (かたよった見方) は、被害者や家族を大変苦しめました。



8 水俣病から学ぶことは何だろう？

(1) ^{ひとのいのち}人の命・^{けんこう}健康や^{かんきょう}環境を大切にする

水俣病が発生した頃^{ころ} は、多くの工場では利益^{りえき} を増やすことが優先^{ゆうせん} され、人々の健康や環境を守ることは後回しにされがちでした。その結果、水俣病をはじめ、多くの公害^{こうがい} が日本各地^{かく} で発生^{わだし} しました。私たちは、人の命・健康や環境を何よりも大切に考えなければなりません。

(2) **公害は起こる前に防ぐ**

公害がいったん起こると、それによって失われた人の命や健康は取り戻せません。しかも、破壊された環境をもとどおりにすることは、大変困難なことです。私たちは、公害を絶対に起こしてはいけません。そのためには、何よりも公害を起こさないよう日頃から注意しておくことが大切です。

(3) **公害が発生した時は、被害が広がらないようにする**

水俣病は、原因がすぐにはっきりしなかったこともあり、多くの水俣病患者が発生しました。

私たちは、健康被害や環境汚染などの公害が発生した時は、原因を早く見つけることはもちろん、被害が広がらないように努めなければなりません。

(4) **正しい知識を持ち、差別や偏見をなくす**

水俣病がどのような病気なのか人々に正しく理解されなかったために、被害者や家族は差別・偏見を受け、大変つらい思いをしました。

私たちは、水俣病に限らず何事においても、正しい知識を持つとともに、被害を受けた方の立場に立って考えることが大切です。

(5) **一人ひとりが環境を守る努力をする**

水俣病は、工場排水と一緒にメチル水銀が水俣湾へ流されたことにより発生したのですが、私たちも毎日の生活で、気がつかないうちに環境を汚し、環境破壊の原因をつくっているのかもしれません。

私たちは、一人ひとりが、海や川などにゴミを捨てたり、汚れた水を流したりしないようにして、環境を守る必要があります。

